

令和6年度第1回福祉のまちづくり研究所企画運営委員会調査研究部会【事前評価】

No.	研究課題名	コメント
1	令和7年度新規研究課題 高齢者・障害者の坂道を考慮した地図システムの開発	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで開発してきた「なび坂」アプリを介助用車椅子、高齢者への適用拡大を計ったもので、本アプリの普及に大いに役立ち評価できる。 ・研究課題R0406M3の継続課題としてこれまで蓄積してきた認知症高齢者等へのフレイル評価のノウハウをIoT技術と連携して適用範囲をライフログの取得に展開した先駆的な取り組みとして評価できる。 ・高い必要性を維持する研究内容で高齢者・障害者のみならず多様な利用者にとって安全快適な交通環境を利用できることに応える必要性に注目した。 ・Google mapが探索した経路を評価する機能だけでなく、自分で設定した条件で最適な経路（例えば、坂道負荷最小経路や消費エネルギー最小経路など）が検索できる機能の実現を期待したい。 ・高齢者の散策支援のためのアプリが普及するためには、高齢者の特性に応じたニーズを把握し、それを地図上に落とすことが必要になるが、その際、多様な高齢者の特性を歩行能力の面から正確にカテゴリ化し、アプリに反映することが望まれる。
2	令和7年度新規研究課題 生活環境と動作モニタリングによる生活支援システムの開発	<ul style="list-style-type: none"> ・研究課題R0406M3の継続課題としてこれまで蓄積してきた認知症高齢者等へのフレイル評価のノウハウをIoT技術と連携して適用範囲をライフログの取得に展開した先駆的な取り組みとして評価できる。 ・研究所の特性が生かされたテーマである。 ・これらのデータを、具体的にどのように活用するのかを検討することが有効性を高めると言える。 ・実用的で具体的な開発目標としてのアプリケーションを設定する必要がある。 ・考えられる効果としてセラピストの負担軽減や福祉用具介護ロボットの導入。転倒リスクの発見、認知症患者の異常行動の早期発見。音声支援を可能とする教示システムの実現が示されているが、基本的な患者を取り巻く生活環境状況や危険要因なども取り上げていかなければならない。